

非鉄金属市況と需給動向

2020年8月（銅、亜鉛、ニッケル、金・白金）

独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構

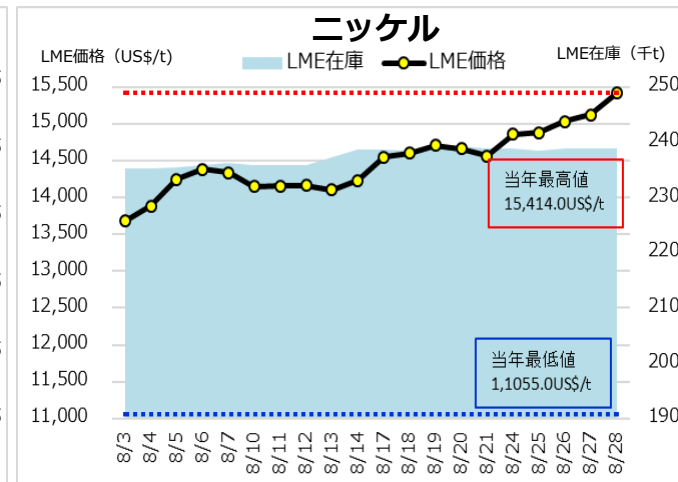
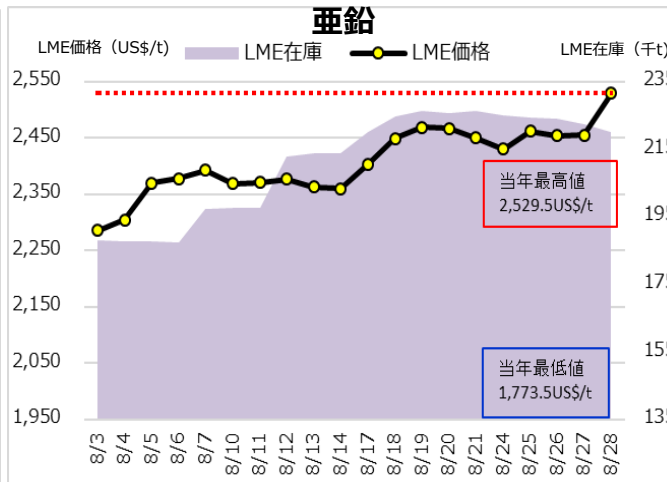
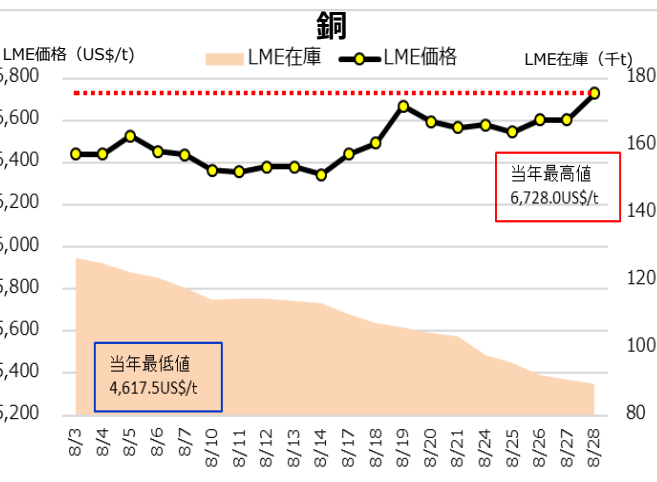
おことわり: 本レポートの内容は、必ずしも独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構としての見解を示すものではありません。正確な情報をお届けするよう最大限の努力を行っておりますが、本レポートの内容に誤りのある可能性もあります。本レポートに基づきとられた行動の帰結につき、独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構及びレポート執筆者は何らの責めを負いかねます。なお、本資料の図表類等を引用等する場合には、独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構資料からの引用である旨を明示してくださいようお願い申し上げます。

ベースメタル市況動向

各鉱種で当年最高値更新、中国の需要の影響大きく

■8月市況動向

- ① **中国需要と米国経済の影響**：銅は、当該期間6,441.0US\$/tでスタート。亜鉛とニッケルは、当該期間最安値でのスタートとなった。上旬は、7月の中国財新製造業PMIが52.8と前月、予想を上回る高水準だったことから中国の景気回復状況が追い風となり、自動車産業などの非鉄金属需要に期待が高まったこと等が、ベースメタルの価格上昇の要因となった模様。一方、中国以外の地域における非鉄金属の需要回復の見通しは依然立っておらず、7月末に発表された2020年第2四半期GDP速報値が米国はマイナス32.0%、欧州はマイナス12.1%となるなど、欧米諸国は厳しい経済状況が続いている。更に、7日に発表された米国7月失業率が10.2%と依然高いこと等から銅価格は下落し、14日に6,342.0US\$/tと当該期間最安値となった。しかし下旬には、中国の2020年上半期銅鉱石輸入量が前年同月比で9.6%増となったこと等から、中国の需要が堅調であるとの見方が強まったことで再び上昇傾向となった。月末には米連邦準備制度理事会（FRB）の金融緩和政策の維持やFRBのパウエル議長が雇用の回復と物価上昇率の引き上げを長期的に行う新戦略を打ち出したことが好感され、各鉱種とも当年最高値で越月した。なお、銅はLME在庫の減少も価格を支え、約2年2か月ぶりの高値となる6,728.0US\$/tをつけた。
- ② **ニッケル、中国ステンレス需要増への期待感等を背景に高値**：ニッケルは初旬、主要鉱石生産国のフィリピンにおける新型コロナウイルス感染再拡大に伴い、同国で都市封鎖措置が再度強化されたことを受け、供給懸念が生じたこと等が上昇要因となった模様。その他、中国の国内向け公共投資によりインフラ向けのステンレス需要増への期待感が高まったことや、7月にEVメーカーTesla社のMusk CEOがEV用のニッケル増産の必要性に関して発言したとの報道を受け、EV向けニッケル需要増が期待されたこと等を背景に、月全体を通して概ね上昇基調で推移。およそ9か月ぶりの高値となる15,414.0US\$/tで越月した。



需給動向 -銅-

中国の銅需要は堅調な動き。チリでは休止中の銅鉱山開発プロジェクトが再開。

■ 需要動向

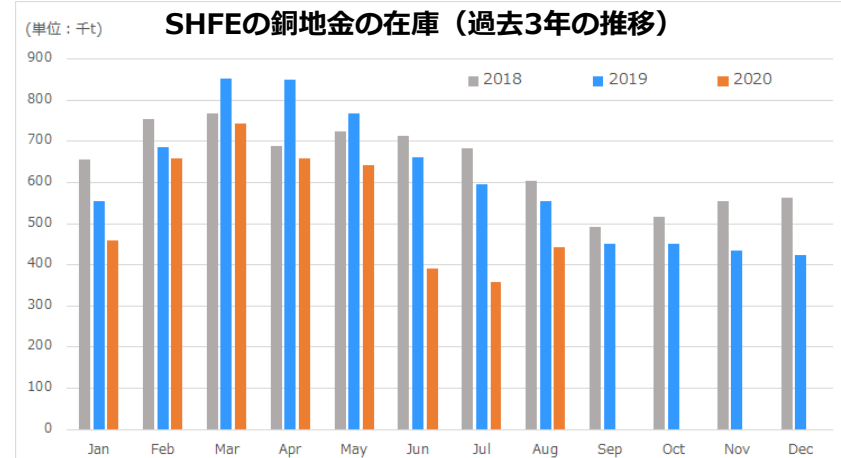
- ① **中国の自動車生産台数は7月以降回復基調**：安泰科の統計によると、中国の7月の銅地金需要量は1,060千tと前月から横ばいで堅調な動き。中国気車工業協会（CAAM）によると、1-7月の自動車生産台数は1,231万台で前年同期比11.8%減となった一方、7月の生産台数は220万台（前年同月比22.9%増）に達し回復基調。2020年6月のSHFEの銅地金在庫が約4割減少した1つの要因とみられ、銅地金需要が回復しているといえる。
- ② **中国通信大手3社による5G基地局を増設**：中国通信大手3社は、6月末時点で5G基地数を40万か所建設。さらに、2020年下半年に向けて従来計画する5G基地局数より2割増設すると発表。高速通信向け銅箔等の需要が見込まれる。
- ③ **LME指標**：LME在庫量が15年振りの低水準（29日に約89千t）となっている。なお、7月半ばから、現物価格と3か月先物価格が逆ザヤの状況にある。

■ 供給動向

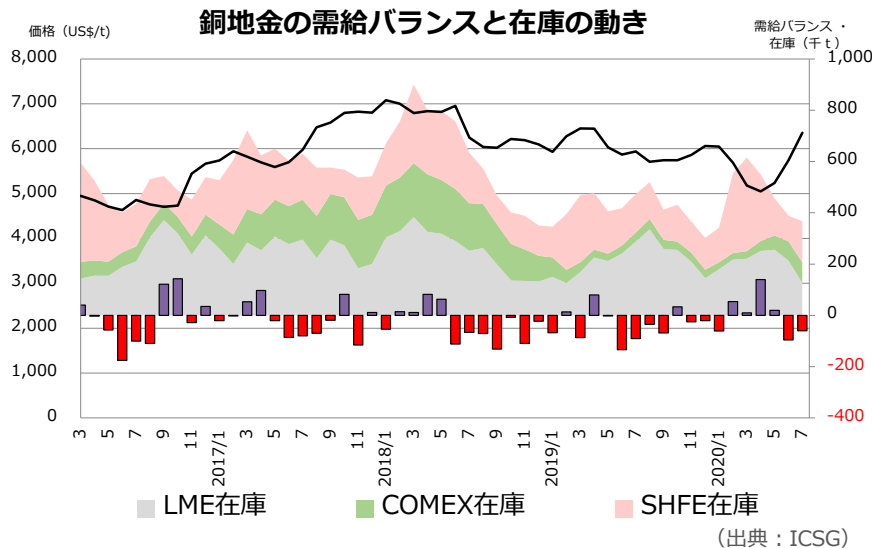
- ① **2020年上半期における企業別銅生産量は新型コロナウイルスの影響により軒並み減少**：Glencore（スイス）は、2020年上半期の銅生産量を約588千t、前年同期比11%減と発表（3日）。Antofagasta Minerals社（チリ）は、2020年上半期の銅生産量を約371千t、前年同期比6%減と発表（20日）。MMG社（中）は、2020年上半期Las Bambas銅鉱山の銅生産量を約131千t、前年同期比29%減と発表（20日）。
- ② **需給バランス**：国際銅加工業者協議会(IWCC)の予測によると、2020年は**285千tの供給過剰**、2021年は**675千tの供給過剰**になると予想。

■ 企業動向

- ① **Teck Resources社（加）ほか**：チリQuebrada Blanca銅鉱山開発プロジェクトの建設工事再開と発表（12日）。
- ② **CODELCO（チリ）**：チリChuquicamata銅製錬所の再開を発表（4日）。またChuquicamata坑内掘りプロジェクトが再開（13日）。
- ③ **Ecuacorriente社（加）**：エクアドルMirador銅鉱山の一部活動を一時停止（19日）。



（出典：調査会社による結果を一部引用）



（出典：ICSG）

需給動向 - 亜鉛 -

鉱石生産量はほぼコロナ禍前水準にまで回復も、2020年上半期は205千tの供給過剰

■ ILZSG

- ① 2020年6月の鉱石生産量は1,064.1千t（対前月比172.6%増、156.6千t増）。新型コロナウイルスの影響が大きい中南米（ペルー、ボリビア、メキシコ）の生産量が5月に続いて6月も回復基調にあり、対前月比大幅増産となった。特にペルーの回復幅が著しく、ほぼコロナ禍前水準に戻っている。
- ② 2020年6月の地金生産量は1,133.7千t（対前月比29.5%増、32.5千t増）、地金消費量は1,131.5千t（対前月比45.1%増、48.4千t増）で**2.2千tの供給過剰**となった。生産量・消費量ともに全体は増加だが、米国の消費量の落ち込みが2020年3月の80.0千tから22.9%減（61.7千t）と大きい。米国製造業PMIが2020年5月は39.8、6月は49.8と50を下回り続けるも、新型コロナウイルス不況から回復途上。
- ③ 2020年8月20日付報道発表によると、**2020年上半期は205千tの供給過剰**となった。コロナ禍の影響で、地金生産量よりも消費量の落ち込みがより鮮明となった形。

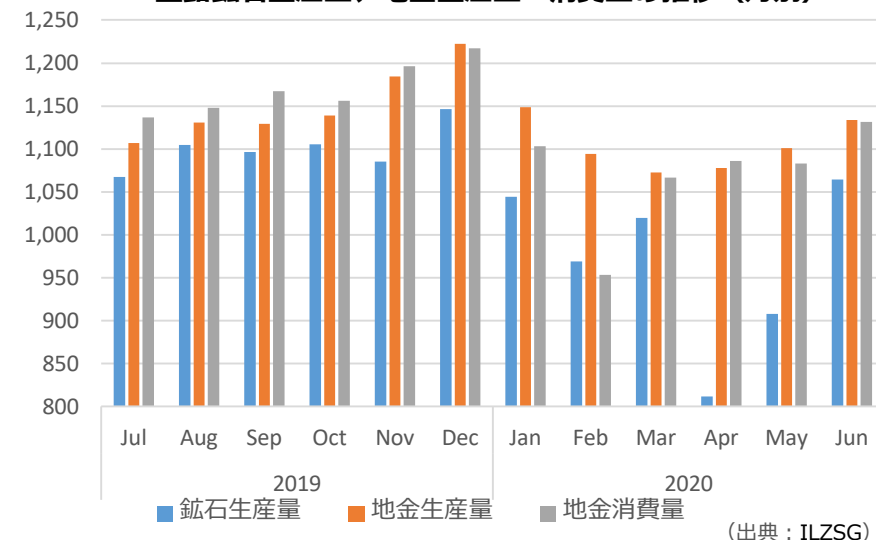
■ 需要動向

- ① **世界の自動車生産台数**：各種報道によると、2020年7月は6,628.6千台と対前月比5.4%増（6,289.6千台）。各国で生産台数は対前月比増。最大生産国の中国は対前月比5.3%減も、2020年4月以降2,000千台と好調を維持し、対前年同月比も22.3%増。
- ② **日本の亜鉛めっき鋼板生産量**：（一社）日本鉄鋼連盟によると、2020年6月は480千tと対前月比10.9%減（539千t）。コロナ禍の影響で2020年3月（860千t）から毎月落ち込みが続く。

■ 企業動向

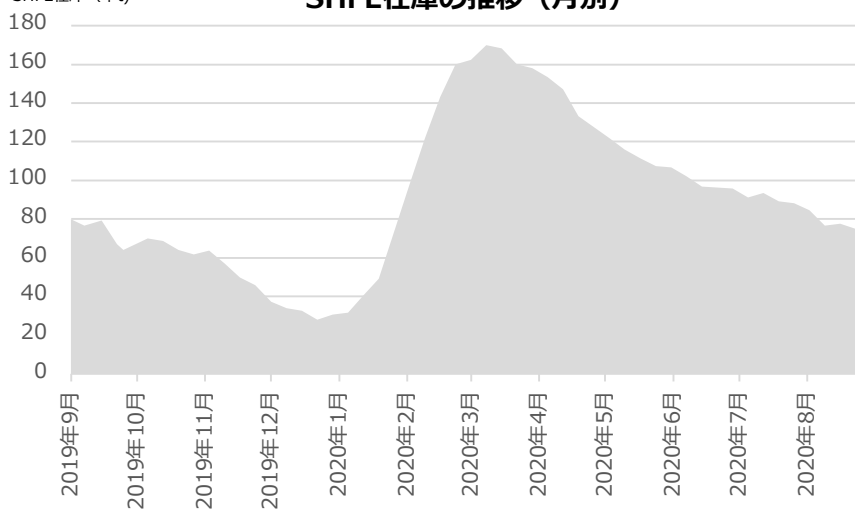
- ① **Heron Resources社（豪）**：NSW州Woodlawn亜鉛・銅鉱山が新型コロナウイルスによる2020年3月の操業停止で借入金の返済に困窮、立て直しを計画（14日）。
- ② **その他（中国）**：安泰科によると、2020年7月の地金生産量は対前月比6.7%増の430千t、内蒙古自治区、雲南省、安徽省の製錬所が保守点検を終え稼働再開（10日）。

（単位：千t） 亜鉛鉱石生産量、地金生産量・消費量の推移（月別）



SHFE在庫（千t）

SHFE在庫の推移（月別）



需給動向 - ニッケル -

供給過剰は継続も、中国企業によるステンレス生産強化の動きにより需要増への期待感高まる

■ 需要動向

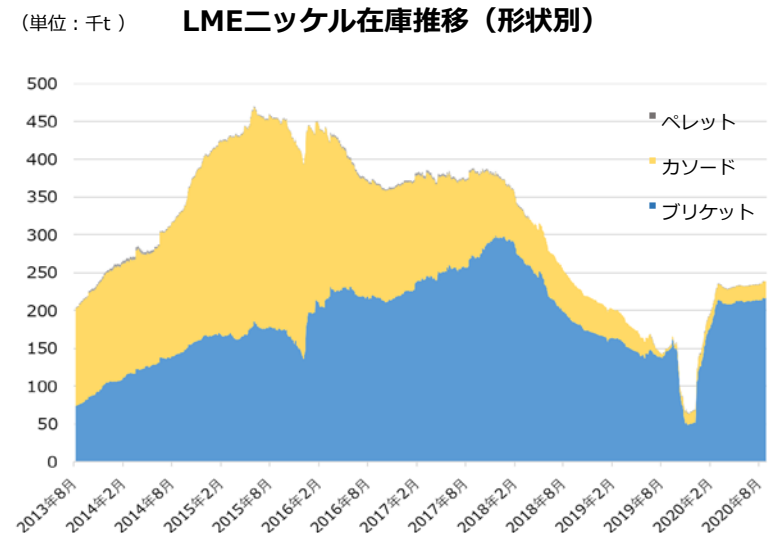
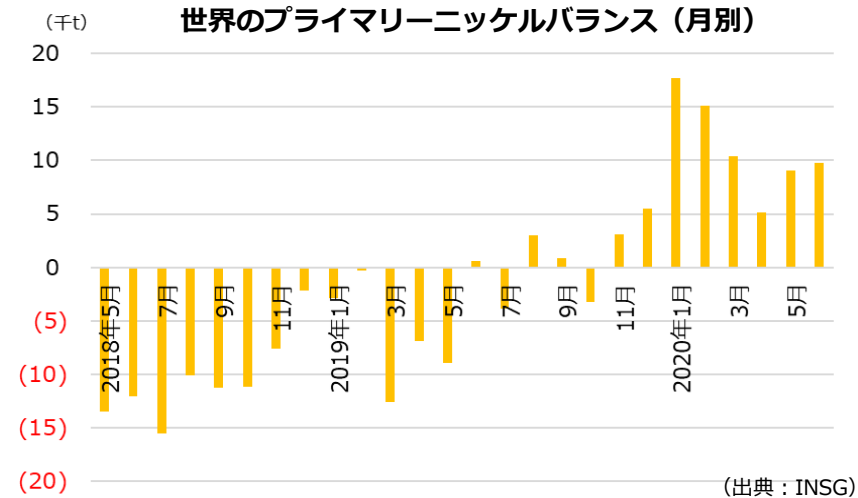
- ① **廈門象嶼集団、インドネシアでステンレス工場稼働開始**：中国福建省の廈門象嶼集団が、インドネシア・Sulawesi島で新たなステンレス工場を稼働開始し、第1期のステンレス生産を開始した。同工場を操業するPT Obsidian Stainless Steelには廈門象嶼集団が51%、江蘇徳龍ニッケル業 (Jiangsu Delong) が49%出資する。ステンレス生産能力は第2期で250万t/年を目指す (21日報道)。
- ② **宝武鋼鉄、太原鋼鉄を統合しステンレス生産強化を目指す**：中国鉄鋼最大手の宝武鋼鉄集団は、ステンレス大手の太原鋼鉄集団をグループ化した。山西省政府が有する太原鋼鉄の株式51%を無償で譲り受けた。太原鋼鉄はステンレスを年間400万t生産し、また、インドネシアでステンレス工場の建設計画を有する。今般の統合により宝武鋼鉄はステンレス生産を強化し、年産能力1,000万t以上に拡大するとしており、現在ステンレス生産世界最大手の中国・青山集団と同規模の生産を目指していく方針 (25日報道)。

■ 供給動向

- ① **需給バランス**：国際ニッケル研究会 (INSG) によると、2020年6月の世界ニッケル需給バランスは**9.7千tの供給過剰**となり、8か月連続で供給過剰となった。
- ② **フィリピン2社、2020年下半期ニッケル供給改善見込み示す**：フィリピンのニッケル生産大手2社 (Nickel Asia社およびGlobal Ferronickel社) は、2020年上半期のニッケル鉱石販売はロックダウン等の影響で低調だったが、下半期は主要な操業障害が発生する見込みはないとの見解を示した (14日報道)。

■ 企業動向

- ① **Horizonte Minerals社 (英)**：100%権益を有するブラジル・Araguaiaプロジェクト開発に向けてシンジケートローンにより最大325mUS\$を調達すると発表。同プロジェクトでは酸化鉱からRKEF法によりフェロニッケルを生産する予定で、2021年初めの建設開始を予定している (12日報道)。



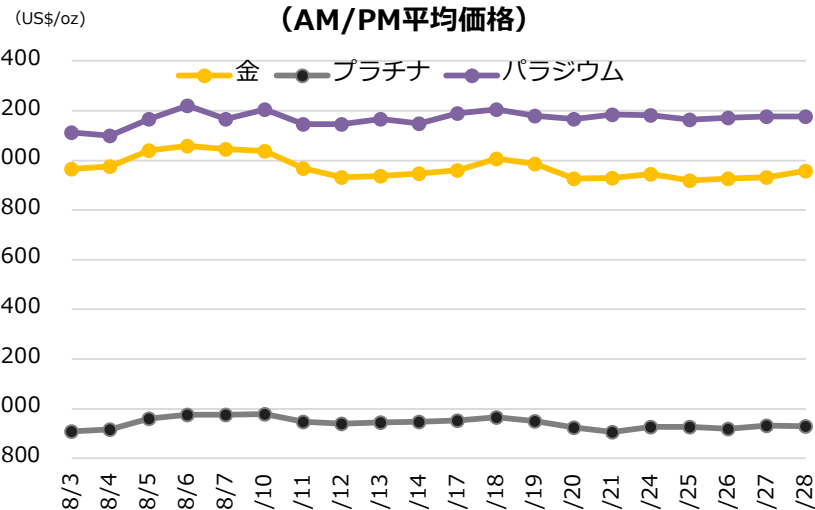
金・プラチナ・パラジウム

金はコロナ不況による金融緩和策等で史上最高値を更新、2,000US\$/oz前後の高値圏を維持

■金市況動向

- ① **金融緩和策・財政拡大策等で史上最高値を記録**：当該期間1,965.75US\$/ozでスタート。新型コロナ不況の景気回復策として世界各国で大規模な金融緩和・財政拡大策を実施した他、ドル安進行と低金利からの脱却が見通されていない状況等が影響し、6日に2,058US\$/ozをつけ史上最高値を更新した。その後、新型コロナウイルスのワクチン開発報道で米国債が売られたことで相場の過熱感が冷め、11日以降1,900US\$/oz台前半に急落した。しかし中旬以降、米連邦公開市場委員会（FOMC）の議事要旨公表を控え、インフレの長期化を容認した方針がとられるとの予想や、中・華為（ファーウェイ）に対する米国の追加制裁などを背景に、18日に再び2,000US\$/ozを突破。25日には米中貿易協議の第一段階が合意されたことから、当該期間最安値1,918.3US\$/ozまで下落するも、南シナ海を巡る米中対立の緊張や米連邦準備制度理事会（FRB）のパウエル議長がインフレを容認する意思を示したこと等からドル安傾向となり、1,956.6US\$/ozと高値圏で越月した。
- ② **月を通して高値圏を維持**：先月からの上げ基調を引き継ぎ、史上最高値を更新した6日時点では過去1か月間で約15%上昇。欧米諸国の厳しい経済回復状況や11月に米国大統領選挙を控え、世界経済の不透明感が続いているとの見方から、当月の平均は1,969.9US\$/ozと依然高値圏に留まった。

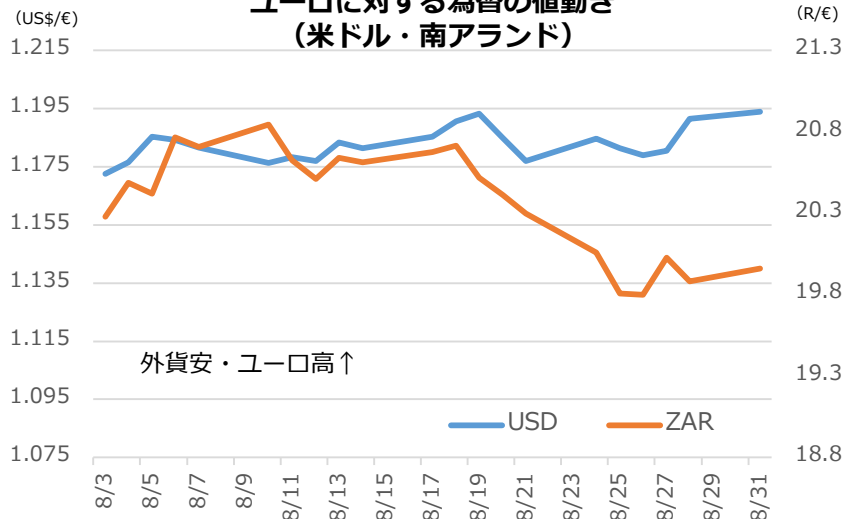
当該期間の値動き
(AM/PM平均価格)



■プラチナ・パラジウム

- ① **需給動向：2020年上半期生産量**
Norilsk Nickel社（露）：パラジウム及びパラジウムの生産量が、それぞれ対前年同期比17.2%減及び同16.8%減。新型コロナウイルスの影響ではなく、前年同期の生産量大による相対的な減産（7月29日）。
Royal Bafokeng社（南ア）：PGM（4E）が対前年同期比12.9%減の173千ozも、ロジウム・パラジウム価格の高騰とランド安で高利益を計上（4日）。
Sibanye-Stillwater社（南ア）：PGM（4E）が対前年同期比5%増の657.8千oz、2019年6月に買収したMarikana鉱山の生産分を含み、コロナ禍による減少分を相殺（13日）。
- ② **排ガス規制**：中国は、一部の都市で前倒して適用が始まっている「国6」排ガス基準を、2020年7月1日から全土に適用。ただし新型コロナウイルスの影響で一部の地域では導入を延期し、自動車生産移行期間と「国5」適合車の販売期間を延長。

ユーロに対する為替の値動き
(米ドル・南アランド)

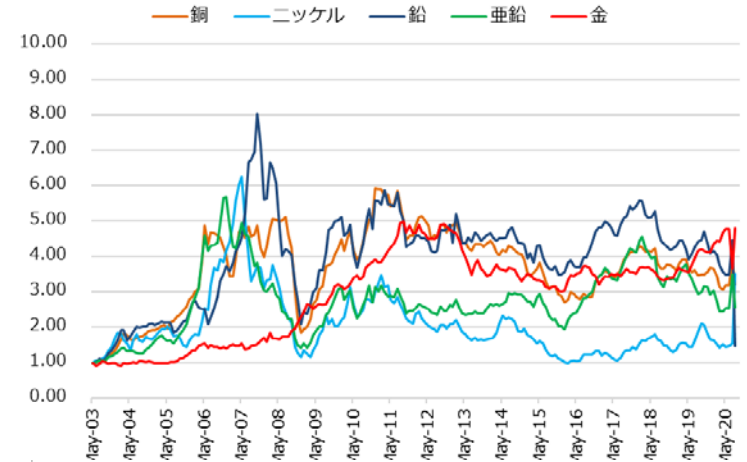


(参考)

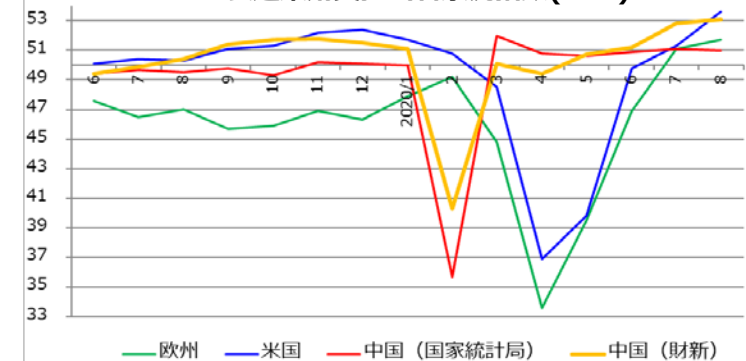
		銅	亜鉛	ニッケル	金	プラチナ	パラジウム
		LME現物	LME現物	LME現物	AM・PM平均	AM・PM平均	AM・PM平均
		(US\$/t)	(US\$/t)	(US\$/t)	(US\$/oz)	(US\$/oz)	(US\$/oz)
本報告期	期初	6,441.0	2,286.0	13,683.0	1,965.8	907.5	2,112.5
	期末	6,728.0	2,529.5	15,414.0	1,956.6	930.0	2,178.0
	最高値	6,728.0	2,529.5	15,414.0	2,058.2	979.0	2,221.0
		8月28日	8月28日	8月28日	8月6日	8月10日	8月6日
	最安値	6,342.0	2,286.0	13,683.0	1,918.3	906.0	2,100.5
		8月14日	8月3日	8月3日	8月25日	8月21日	8月4日
	平均	6,496.7	2,406.8	14,486.9	1,969.9	941.3	2,168.9
先物 (8月28日)	3か月	6,702.0	2,554.5	15,442.0	-	-	-
	Dec 1	6,684.0	2,590.0	15,664.0	-	-	-
	Dec 2	6,683.0	-	-	-	-	-
2020年 (当年)	期初	6,165.5	2,299.0	12,418.0	1,523.8	984.0	1,948.0
	期末	6,728.0	2,529.5	15,414.0	1,956.6	930.0	2,178.0
	最高値	6,728.0	2,529.5	15,414.0	2,058.2	1,025.0	2,783.5
		8月28日	8月28日	8月28日	8月6日	1月16日	2月19日
	最安値	4,617.5	1,773.5	11,055.0	1,477.5	600.0	1,592.5
		3月23日	3月25日	3月23日	3月19日	3月19日	3月17日
	平均	5,735.4	2,068.4	12,833.0	1,711.0	861.3	2,126.6

主要非鉄金属の価格推移
(2003年5月 = 1)

(JOGMEC作成)



製造業購買担当者景況指数(PMI)



米国経済	8月の製造業PMI (IHS Markit社発表) は53.6 (前月 : 51.3、予想 : 51.9) と、前月、予想をともに上回った。8月非農業部門雇用者数は前月比137.1万人増 (前月 : 176.3万人増、予想 : 135.0万人増) と増加数は前月より下回ったが、失業率は8.4% (前月 : 10.2%、予想 : 9.8%) と前月から改善した。
中国経済	8月製造業PMI (国家統計局発表) は51.0 (前月 : 51.1、予想 : 51.2) と、前月より若干低下した。財新発表は53.1 (前月 : 52.8、予想 : 52.5) と前月と予想を上回ったが、伸び率は縮小した。
欧州経済	8月製造業PMIは、51.7 (前月 : 51.1、予想 : 52.7) と前月を上回った。